

ひがし北海道価値創造パートナーシップ会議
～新たな北海道総合開発計画の推進に向けて～

第Ⅰ部「地域づくり人材の発掘・育成」

【地域づくり人材の実践事例】

○井田様

- ・十勝の畑や風景を観光資源に活用しない手はないと考え、観光客の受入が難しい専業農家の方に代わり、「畑ガイド」という取組を行っている。観光客の方に十勝の農業を知ってもらおうという事業で、5年目になる。
- ・1年目が主に地元へのPR、2年目に全道に、3年目にやっと全国（主に首都圏）の方へ情報を届けることができ、途端にお客が増えた。
- ・ターゲットとなる道外客に情報が届くまでの期間、どのように経営を維持することができるかがポイント。今後の課題として、増加する外国人観光客に対する言葉の問題がある。

○林様

- ・十勝のガーデンをめぐる観光が今後盛んになっていくと考え、2008年にガーデンづくりをスタートさせたが、旅行代理店からは、十勝は観光のブランドではないと言われ、2時間圏内にある富良野のブランド力をいかに取り込めるかを考えるようになった。
- ・その後、旭川、富良野と連携して北海道ガーデン街道を立ち上げたところ、5年で集客数が延べ人数で35万人から60万人まで増加し、地域連携、観光連携の素晴らしい取組として評価された。旭川、帯広空港からのアクセスの良さ、食やホテルの質も評価要因であると考えている。
- ・課題はインバウンドがまだまだ少ないこと。5年間は北海道内のブランドづくりに取り組んできたが、これからはインバウンド向けにブランドを発信していきたい。

○道山様

- ・千葉県出身で、大学時代を網走で過ごした。北海道への強い思いがあり、3年前に合同会社大地のりんごを起業した。
- ・網走周辺は1次産業が盛んで、その景観、スケール感が素晴らしいのにも関わらず、首都圏からは暗い監獄のイメージしかなく、また、美味しい食材があるにも関わらず、網走のイメージからは買ってもらうことが難しいと感じていた。生産地域と消費地域の情報の食い違い解消に何か役目が果たせないかと考えたのが起業のきっかけ。
- ・事業内容としては、地元食材を用いた製造加工を中心に行うとともに、自らの経験を活かし、地元で起業する方や製造販売を行いたい農家に対するコンサルティング的な業務も行っている。

○森崎様

- ・小さな子供がいるというだけで中々採用されない女性が多く、そんな女性と繋がってなにかできないかと考え、女性によるプロジェクトを立ち上げた。
- ・人づくりが目的だったが、地元にあるものを使った釧路らしい商品づくりが中間的就労支援に繋がり、現在では、子育て中の女性自らのアイディアで新しい商品を生み出すといった循環が広がっている。

【人づくりに関する意見】

○森崎様

- ・女性が自立していくことは一人ではなかなか難しい。みんなで考え、みんなで寄り添うことで自立が生まれ、力強く元気になってくる。
- ・子育て等で疲れ、30代は元気がないと感じる。この世代が元気であると、地域も元気になってくる。地域が元気だと、子供が地域を好きになる。こうして育った子供達が、外に出てグローバルな視点を身につけ、また地域に帰ってくると考えている。

○道山様

- ・子育て中であったり、年齢等個人差や状況はさまざまであるが、女性はその中でやりがいや自分の特徴を生かした仕事等を学ぶことを求めている。
- ・互いに助け合えばやっていけることがわかってきた。一人の人間が母親や妻などの役割だけではなく、様々な側面を担うことができる寛容な社会があれば、人づくりが地域に広がる。

○林様

- ・リーダーシップも大事だが、同時にマネージャーシップも重要。役割を明確にし、その人の強みを伸ばして活かすことが大切である。
- ・フラットな組織で議論しあうことも重要。また、DMOもそうだが、生産性の高い組織をマネジメントできる人材が必要。

○井田様

- ・人づくりに関しては、多様な働き方を認め、今いる人が活躍できる社会づくりが重要。
- ・優秀な人材は地元を離れてしまうのが今の北海道の現状。魅力的な仕事を創出し、北海道が面白いと感じてもらえるような場づくりができれば、人材を引き留めることができるし、地元に戻ってくる。
- ・世界に羽ばたくことができる人材づくりとして、公教育を充実させることによって、子供の能力を伸ばしてほしいと考えている。その子どもたちが外にいったん出て、その力を持ってまた北海道に帰ってきてくれる北海道にしていきたい。また、すでにある仕事に満足するのではなく、起業家精神を養成する必要があるのではないか。

第Ⅱ部「世界のひがし北海道2050」

【ひがし北海道における連携・対流の現状と課題】

○蝦名様

- ・インフラが整備されることで様々な需要が創出されると思う。高速道路ができたことで、どこかへ出かけようかという話も聞こえてくるようになった。
- ・釧路市は人口22万人から25万人の都市を目指してきたが、現在は17万5千人程度。これを受け、釧路市はコンパクトシティの考え方をまとめ、取り組んできた。医・食・住というベースを進めながら、拠点づくりとネットワーク化に取り組んでいる。
- ・北海道は昔から広域分散化に慣れており、全国から見ても先駆的な取組ができると考えている。地域が連携することで、それぞれの地域の強みを活かした様々な展開が可能となる。

○田中（敬）様

- ・道東道と道央道が繋がり観光客が増えたが、今後、高速道路網がひがし北海道全体に広がることで、人流・物流とも更に盛んになると期待している。
- ・ひがし北海道を訪れる外国人観光客数は、北海道全体の増加数ほど増えてはいない。まだまだ伸びしろがあると捉えており、広域観光周遊ルート形成により受入環境がレベルアップする。ひがし北海道全体で観光振興が進められるよう協力していきたい。
- ・帯広空港は十勝の空の玄関口として重要な役割を担っており、エプロン拡充などにより受入体制強化を計画しているところ。

○田中（夕）様

- ・ひがし北海道は広く、高速道路網の整備により距離感が縮まる。オホーツクから十勝までは東京に行くよりも遠いのが現実。
- ・北海道では、救急医療や高度医療等の面で医療格差が進んでいる。分娩できる地域も少なく、多くの妊婦が長距離移動を強いられており、精神的・肉体的な負担が大きい。
- ・行政区域を越えた広域医療連携や地域間をつなぐ安全な高速交通ネットワークが地域の産業を支え、地域を元気にする上で重要。

○野村様

- ・路線バスには、生活交通を担うだけでなく、これを裏支える観光交通を担うべきであり、公共交通のアナログ的な見える化、商品化が必要。十勝では、バス会社・タクシー会社と連携して協議会を立ち上げ、二次交通全体のアナログ的な見える化を実現させた。
- ・アナログに続き、デジタル、ITによる見える化のため、北大、IT開発会社と連携し、バス乗り換えのアプリを開発したところであり、今後、ひがし北海道の二次交通が連携して、見える化に取り組むことが必要。
- ・インバウンドに関しては、これらに加え、一次交通同士・二次交通同士の連携や一次交通と二次交通の連携が必要であり、Wi-Fi環境整備なども課題。

○水谷様

- ・網走市は1月に東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンに登録し、3月にはパラリンピックのナショナルトレーニングセンターに選出された。日本初の障がい者スポーツ専門高校開校の認可申請を行ったところで、障がい者スポーツを1つの切り口としたまちづくりを行っている。
- ・障がい者スポーツをやってらっしゃる方は、高齢者の元気な将来の姿を現しているかもしれないと考えており、障がい者スポーツの切り口でまちづくりを進めることが、今後の高齢化、人口減少社会に活かすことができる。
- ・課題は交通ネットワーク。良好なアクセスはまちの活性化に繋がってくると考えており、空港の民営化や運営についても、全体の問題として議論していく必要。

【世界水準の食と観光をどのように目指すか】

○水谷様

- ・ひがし北海道の食と景観は世界水準であるが、食については加工品がないことが悩み。美味しい料理があれば必ず観光客が来る。美味しいものをいかに美味しく食べていただくかが重要。
- ・食以外にも、知床、摩周、阿寒といった観光資源があるが、地域の魅力を高めるためにはネットワークが重要であり、二次交通、道路整備、空港間連携が一番の課題。

○野村様

- ・情報がふんだんにある中、地域が連携・結集して情報発信していくべき。どれだけの方とつながりを持てるか、どれだけひがし北海道を発信できるかが重要。SNSもしっかりと活用すべき。
- ・表示物についても、地域外からいらっしゃった方、特に海外の方にどういうふうに見えるかを考えて、構築していくべき。
- ・北海道新幹線札幌延伸をいかに前倒しできるか。札幌まで延伸した後や、道東道が全通した後、ひがし北海道にどれだけのお客様にいらしていただけるか、札幌延伸後を見据えて連携を進めていくべき。

○田中（夕）様

- ・ひがし北海道には世界的価値を有する自然、バラエティ豊かな食があるにも関わらず、厳しい交通事情と地上交通アクセスにより、道央、道南圏と比べ、訪れる人が少ない。観光客が集中している道央圏等からその先へ足を延ばしていただくためには、高速交通ネットワークの充実と空港の活用、二次交通の問題解決と併せ、エリア同士で連携し、ひがし北海道の魅力をさらに発信していく努力が必要。
- ・訪日外国人観光客をさらに多く受け入れるためには、観光地を安全で快適につなぐ高速道路に加え、豊かな景観を楽しむ一般道の整備も必要。
- ・行政と民間が連携して3圏域で新たな価値を創り、広域観光周遊ルートの世界水準のゴールデンルートになるように努力していきたい。

○田中（敬）様

- ・生産力、安全安心力、研究開発力が十勝の食の強みであり、量・質とも日本を代表する食料供給基地である。
- ・観光についても、「十勝マルシェ」が質の高い食のイベントであり、ひがし北海道を代表するイベントとして成長させていきたい。
- ・農業を見せる観光やサイクルツーリズム、ヘルスケアツーリズム等の十勝らしい観光開発や、自然そのものを観光素材とした大都市圏で暮らす人々があこがれる滞在型観光など、世界水準の自然空間を活かした観光客誘致に取り組みたい。

○蝦名様

- ・観光を産業と位置づける「観光ビジョン」を策定し、現在その第2弾を策定中。また、先般、国の観光立国ショーケースの認定を長崎、金沢、釧路の3市でいただいた。
- ・重要になってくるのは、W i - F i もそうだが、サイン（外国語表記）の問題。ひとつのエリアだけではなく、100%のサイン化、ストレスフリー化を目指して取組を進めているところ。
- ・アクセスの充実等によって、ひがし北海道という枠組みになると100万人の人口がいることになり、経済圏としての確立や各地域独特の観光の活用を図ることができる。それができれば、各地域は必然と世界水準になっていく。